

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	ハートホーム 平川 グループホーム		
所在地	山口市黒川 729-2		
電話番号	083-934-7611	事業所番号	3570300743
法人名	医療法人社団 青藍会		

訪問調査日	平成 20 年 6 月 10 日	評価確定日	平成 20 年 8 月 15 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	13 人	常勤 10 人 非常勤 3 人 (常勤換算 11 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り	
	3 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 60,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	330 円	昼食	525 円
	夕食	525 円	おやつ	円
その他の費用	月額	16,000 円		
	内訳	光熱水費 10,000円 日常生活費 6,000円		

(4) 利用者の概要 (5月22日現在)

利用者数	18 名	男性 4 名	女性 14 名	
	要介護 1	1	要介護 4	5
	要介護 2	6	要介護 5	1
	要介護 3	5	要支援 2	0
年齢	平均 歳	最低 74 歳	最高 92 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 阿武循環器内科・総合病院 山口赤十字病院 山口よしき病院 歯科 松浦歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

前回の評価結果の改善に対して目標や対策をしっかりと立て、1年間かけて職員と共に意欲的に取り組む姿勢がうかがえました。入浴時間は13:00~18:00となっていて入浴拒否の対応の工夫もしています。自分でシャワー浴をする人や、夜間入浴、清拭、足浴などの対応もしています。日中は鍵をかけない工夫をし、外出傾向のある利用者には、一緒にでかけて近所のケーキ屋に行って帰ることもあります。また、利用者全員で出かけて、ケーキなどを楽しんだりするなど、職員がそっと付き添い、利用者の自由と安心、安全の確保に努めています。

(特徴的な取組等)

相談や苦情を受ける体制(外部機関、第三者委員等)が整っており、記録表には第三者委員への報告の要否欄などもあり、家族にわかりやすく説明できる工夫をすると共に、時には外部に公開し、運営に反映させています。応急手当の定期的訓練の指導や連絡体制の充実、災害時に昼夜を問わず、利用者が避難できる方法の訓練にも力を入れていす。備蓄の保有にも努めています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果を検討し、目標や対策を話し合い、毎月モニタリングを行なった後、家族に状況報告のため玄関に掲示するなど、改善に1年間かけて取り組みました。3月末に「改善計画評価表」を作成しています。

(今回の自己評価の取組状況)

各ユニット職員の意見や考え方を聞いた上で、管理者と勤務経験の長い介護職員が担当となり整理後に、職員会議で最終的な検討、まとめをして自己評価表に記入しました。

(運営推進会議の取組状況)

民生委員(1人)、地域包括支援センター職員(1人)、地区福祉員(1人)と家族(全員呼びかけ)、管理者、職員(1人)がメンバーで2ヶ月に1回開催しています。サービスの提供状況、評価報告などの議事録は写真付きで作成しており、ホームの玄関に掲示するなど、公開しています。

(家族との連携状況)

家族との交流会を年2回開催しています。また、ホームだよりで職員のコメントを記入し、家族に送付しています。運営推進会議の議事録を希望される家族に送付することもあります。また、来訪時に意見、要望等も聞いています。

(地域との連携状況)

ホームが主催する餅つきに児童50名程度と保護者の参加があり、納涼祭(カラオケ大会)には自治会役員や地区の方々の協力を得ています。近隣の方々と挨拶をするだけでなく、ホームで採れた野菜を配ることもあります。障害者のホームにおやつのおすそわけに行ったりもしています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>昨年、職員と一緒に「利用者が認知症を超えて、その人らしく安心した毎日を過ごせるように最善を尽くす」というホーム独自の理念を作成、地域の中で実行に努めている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ホームに多くの人が訪れてもらえるように、何故この理念を作成したか、実践の繰り返しの中で、管理者を中心として職員と共に、日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>児童とともに餅つきをしたり、自治会の役員や地域の人々の協力を得て、納涼祭(カラオケ大会)の開催や近隣の障害者の方々との交流や挨拶で馴染みを深めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価結果の検討後、目標、対策を話し合いモニタリングを行なうなど、1年をかけて改善に取り組み、職員の自己改革の一因になり、「改善計画評価表」の作成につながっている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>民生委員、地域包括支援センター職員、地区福祉員、家族、管理者、職員のメンバーで、2ヶ月に1回開催して評価報告、サービスの提供状況等の話し合いをしている。</p>	<p>・メンバー拡大の検討</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>管理者は市担当課に頻繁に足を運び、ホームの運営について相談している。市担当課職員も度々ホームを来訪し連携している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族交流会(年2回)を開催、ホームだよりで職員のコメントを記入して、家族に送付している。来訪時などにも意見、要望を聞いている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情を受け付ける体制が整っている。窓口、職員、第三者委員、外部機関を明示し、苦情受付の記録は整理され、家族に説明している。第三者委員への要・否欄もあり、時には外部に公開し、運営に反映することもある。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の希望を聞いて勤務表を作成し、行事等に際しては公休出勤や時間外勤務などで対応している。また、必要に応じて管理者が対応して介護業務をカバーする。夜勤の2人体制や無理のない勤務シフトについて考慮している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は最小限に抑える努力をし、異動がある場合にはホームだよりに記載、運営推進会議、来訪時などに家族へ報告をしている。利用者へのダメージを防ぐため、職員は言葉かけなどに配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として外部研修の情報を提供して、希望する研修に参加できる配慮をしているが、参加が偏っている。法人の内部研修やホーム独自の研修もある。夜勤者がマニュアル等を参考に学習し、翌日の朝礼で発表している。	・段階的、計画的研修機会の検討
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の介護施設部会の研修会に参加したり、月1回の法人の5グループホームの交流、情報交換をしている。また、法人間の交流研修の機会を得て、県外のグループホームや福祉施設を視察研修に出かけたりして、質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	見学してもらったり、面接、相談、体験などホームを理解してもらうようにしている。同じ建物の2階から上の高齢者用アパートの住人の見学も多く、知人を介して速やかに馴染んだ人もいる。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	書道の得意な利用者に歌詞を書いて貰ったり、懐かしい歌を教わったり、支えあう関係を築いている。	
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	起床、就寝、夜間の入浴、日用品の調達など本人の希望を尊重し、家族と連携しながら支援している。地域の美容院やかかりつけの歯科の受診なども可能で、本人の意向等の把握は家族にも協力を得て、モニタリング用紙(センター方式を参考に改定)を活用している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	月1回のカンファレンスを開催し、職員の意見を聞いている。カンファレンスへの家族の参加はないが、計画の原案を見せて意見を聞き、反映するようにしている。家族の来訪時に意向を聞くよう努めている。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	介護計画の状況等を評価すると共に、状態の変化、状況、家族の要望に応じて、3ヶ月もしくは随時の見直しをしている。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	美容院、かかりつけ医への移送サービスや、選挙、冠婚葬祭などの特別な外出の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医(眼科、歯科など)と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。家族に情報を提供し、共有に努めている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りの指針、同意書等、関係書類は整備され、家族に説明もしている。利用者の介護度によって話し合い、意向を聞いている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	法人の内部研修で開催される「個人情報」に関する研修会には、ホームの全職員に必ず1回は受講するよう指導している。また、ホーム内でも勉強会を開き、排泄時の言葉かけなど日々実践している。個人ファイル等は所定の棚に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「その日」にしたいことの把握に努めると共に、散歩、入浴等一人ひとりのペースを尊重し支援している。また、その日の状態によっては、食事、起床の時間をずらすなどの配慮をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食は職員も同じ食事を食べるが、昼、夕食は配食を利用者と共に盛り付け等している。月1回は夕食を作ることを実施し、体調や希望に応じて粥やパンへの変更もできる。おやつを頻繁に作り、障害者のホームにおすそわけもしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	毎日午後から入浴可能(13:00～18:00)。利用者の希望を大事にし、入浴を楽しめる支援をしている。自分でシャワー浴をする人、夜間入浴をする人もいる。清拭や足浴等の対応もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生け花、草取り、洗濯(洗う、干す、たたむ)、掃除、書道、新聞、買い物、散歩、ホタル見物、化粧療法、音楽療法など、活躍できたり、楽しんだりできる場面づくりを支援している。陶芸の好きな方にはボランティアの指導を受けられたり、奥の共用空間の本棚の図書を利用できるなどの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	敷地内の畑を上階の住民と一緒に作っている。建物の外周は利用者が散歩できるよう整備されている。四季の花見やホタル見物、秋吉台へのドライブ、日用品の買い物や、希望にそって近くのケーキ屋に散歩がてらに出かけることもある。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は認識し、実践している。同敷地内の他の事業所も交えて「高齢者虐待防止委員会」を開催、復命、共有している。市との連携も図っている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホームの入口をできれば中庭があり、デイサービスの入口があり、見守りやすく、外出される時には一緒について行く等、自由な暮らしを支えるようにしている。また、近隣の方からの通報等もある。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故やヒヤリはっと報告書は整理、保存され、職員会議で再発防止の検討をし、共有すると共に、ケアカンファレンスにおいても検討し、介護計画に活かしている。家族への説明もされている。日常業務の中で看護師がその都度、事故防止に対しての指導をする取り組みもしている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアル、連絡体制を整備し、3ヶ月に一度看護師の指導のもと、応急処置等の訓練をしている。また、普通救命講習を受講した職員もいる。法人の内部研修も受講している。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回消火器使用、避難、通報、タンカ使用の訓練を実施、別日程で夜間想定訓練も2回実施している。訓練には利用者、同じ建物のアパートの住人も参加している。法人本部とホームに分けて災害時の備蓄(水、食糧)を保有、避難場所も決めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとり手渡しで確実に服薬している。不定期ではあるが、薬剤師の指導を受けている。服薬の情報はファイルして共有している。必要な情報は週3回の訪問診療時にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりに応じた支援をしている。義歯は毎日消毒、歯ブラシは週1回消毒、保管している。職員は訪問歯科医の来訪時に指導を受け、口腔ケアを支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は把握している。配食の献立は法人栄養士が作成、朝食等についての栄養バランスも栄養士のアドバイスももらっている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	研修や勉強会に参加すると共に、看護師の指導のもと手洗い、うがいの励行やペーパータオルの使用などの取り組みもしている。インフルエンザ予防接種は利用者、職員全員が受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ガラス張りの玄関は雨や雲の流れが見ることが出来、広い廊下には転倒防止も兼ねてのテーブルや椅子が配置され、季節の花がさりげなく生けられ、毛筆の書やハガキ、貼り絵と地域の方の絵が廊下の壁に見やすく掛けられている。メダカの水槽が玄関に置かれたり、居心地良く、能動的に過ごせるよう工夫されていた。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ソファ、テーブルセット、冷蔵庫、タンス、鏡台、ベッド、テレビ、机、写真など好みの物や使い慣れた物が持ち込まれている。フローリングの個室であるが、希望に応じて畳を敷くなど、本人が落ち着いて、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	ハートホーム平川 グループホーム
所在地	〒753 - 0851 山口市黒川729 - 2
電話番号	0 8 3 - 9 3 4 - 7 6 1 1
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (5 月 22 日現在)

ユニットの名称	ユニット1				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名	男性	名	女性	名
	要介護 1		要介護 4		
	要介護 2		要介護 5		
	要介護 3		要支援 2		
年齢構成	平均 83.2 歳	最低 74 歳	最高 92 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	業務改善ミーティングにて実施
評価確定日	平成 20 年 4 月 19 日

【サービスの特徴】

ホーム内は自然光を採り入れ、温度調整にも配慮し、落ち着いて生活できるよう環境整備に努めています。

入居者が自分で配膳や食器洗い、洗濯や衣類の整頓等の活動ができるよう、必要な場面づくりに意図的に取り組んでいます。

ISOを取得している事業部門として、記録様式や組織全体の連絡相談など、基本的体制の整備に取り組んでいます。

母体医療機関の下で、多機能の事業所が整備されており、それぞれの教訓を活かした運営や専門職間の連携により、介護サービスと職員の質の向上を図っています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	理念を作成している	左記のことを引き続き実施していきたい。
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	理念を目の届く場所に掲げ、それを目標に日々取り組んでいる。	左記のことを引き続き実施していきたい。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	理念を明確に示している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	サービス向上のため、毎月話し合いのもと質の向上に向け取り組んでいる。	左記のことを引き続き実施していきたい。
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	2ヶ月の一度の運営推進会議を開催し理解してもらえよう取り組んでいる。	左記のことを引き続き実施していきたい。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	畑で収穫した野菜を隣近所の方へ差し上げている。通勤時、帰宅時、散歩時など出会った隣近所の方に挨拶をしている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	年末、地域の子ども会と共にもちつきを事業所で実施している。夏、事業所にて納涼祭を実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。他にも地域行事を提供・参加出来ることを提案している。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	納涼祭、もちつきの実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果を職員全員で共有し、改善点は早急に取り組んでいる。	左記のことを引き続き実施していきたい。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度実施し、サービス向上に努めている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者が連携を取っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	実施していない。	勉強会の機会をもちたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に努めている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	不安・疑問・要望を尋ね、ケアプランに反映し、よりよいサービスが提供できるように努めている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員が話を聴き、意見をよりよいサービスへつなげるようケアプランに反映し努力している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、家族への手紙としてG/H便り作成し送付している。また、面会の家族へも変わりがないかを報告している。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		情報開示実施している(玄関先に面会者にみえるよう情報開示要求者には開示する旨を張り出ししている)。 左記のことを引き続き実施していきたい。
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		意見箱の設置を行っている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		提案や意見はすぐに反応があり、実施している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		よりよい勤務体制がとれるよう勤務の調整に努めている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		離職時、ケアをし混乱等おきていない。 左記のことを引き続き実施していきたい。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		毎朝の朝礼時などに研修を行っている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		多様な資質をもった職員を配置している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		毎月、定期的に勉強会などに参加している。 左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		左記のことを引き続き実施していきたい。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		研修機会を確保する。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		介護福祉士への手当てはあるが、計画作成担当者への手当てなし。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		話し合い、連絡を取り合い対応している。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		家族等と相談しながら工夫している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。
			左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事参加等を促している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	理解に努め、よりよい関係が築けるよう努力はしている。		家族との連携を密にとりたい。
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会、外出にて出来ている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員間で情報を共有し、利用者同士の関係を支えている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	医療機関などグループとしての関係継続がある。		左記のことを引き続き実施していきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、その時々本人・家族の意向を反映しケアプラン作成・サービス提供を行っている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族に聞くなどし、生活歴の把握に努めている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	経過記録に記録を残し、情報を共有している。		左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族・本人の意向を反映しケアプラン作成している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	話し合い、見直しを行っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、個別の経過記録をつけている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況、要望に応じて柔軟な支援をしている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて対応している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	納涼祭、もちつきの実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問リハビリの実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	プライバシー確保は行っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	本人の希望を表せるよう働きかけて納得して過ごせるよう支援している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	その人の状況・状態に合わせ、日々、出来ることはしてもらっている。	左記のことを引き続き実施していきたい。利用者との買い出しの機会をもっと増やしていきたい。
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	本人のペース・希望に合わせた散歩の実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	訪問散髪がくるのでほとんどの利用者が利用しているが、希望者には、付き添いのもと美容院に行ってもらっている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	準備・片づけ等その日の状況に合わせて利用者で行っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。決まった利用者が手伝いをされることが多いので、他の利用者も出来るように支援したい。
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	おやつ、飲み物は家族に差し入れてもらうか、お小遣いで買っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	尿意・便意がある利用者はその都度トイレ誘導を行っている。定期的にも誘導、声かけを実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に3回の入浴を実施。時間帯は決まっている。		入浴を嫌がる利用者も少なくない。時間・タイミングを考えたい。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	状況に応じて対応している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	集団生活が基本になっているように感じる。書道が好き・得意な方には壁面の手伝いをしてもらっている。		一人一人の楽しみごとをもっと支援していきたい。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理ができる利用者は自分でお小遣いを所有している。パン屋が来た時は、買いに行ったりもしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気がいい日には近くのケーキ屋等に散歩に行っている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月、行事や買い物訓練にて外出等は実施している。		一人一人が行きたい場所へはあまり外出できていないので、実施していきたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望者は電話、手紙のやりとりをしている。正月は全員、家族宛に年賀状を出している。		左記のことを引き続き実施していきたい。年賀状以外にも、季節の手紙を出すように支援していきたい。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問者も多く、訪問しやすい環境作りをしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば、適切に対応している。		左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		2ヶ月に1回、家族交流会を実施している。暖かい季節は外出行事も計画し、家族も参加されている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		拘束のないケアに取り組んでいる。 左記のことを引き続き実施していきたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		玄関は日中鍵をかけずに対応している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		利用者の所在確認を常に行っている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		その人にとって危険な物は預かり対応している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		ヒヤリハットを作成、職員で情報を共有できるようにしている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		定期的な訓練を実施している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		事故報告書・ヒヤリハットの作成、情報を共有している。 左記のことを引き続き実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に訓練を実施している。手順書もマニュアルとして作成している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	話し合い、報告を実施している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	経過記録に記録を残し、情報を共有している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	内服処方箋の情報を職員で共有できるようにファイルを作成している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘になる利用者が多いので、予防に努めたい。		便秘になる利用者が多いので、予防に努めたい。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケアの実施。歯ブラシやコップの毎週消毒を実施している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食思、水分摂取が少ない利用者は医師に相談し、栄養補給剤を服用するなどし、対応している。水分摂取が少ない利用者は本人の嗜好の飲み物を家族に持参してもらうなど対応している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し対応している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材はその時間に厨房から届いている。家族からの差し入れは賞味期限を確認し、その都度管理している。		左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には、植物を植え明るい雰囲気をつくっている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	毎月、季節にあった歌の歌詞を書道し貼り付けたり、貼り絵等も貼り付けている。また、利用者にフラワーアレンジメントをやっていたり、共有部に飾っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。 日よけを設置したい。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓際に椅子をテーブルを置き、少数で過ごせる場所の設置。和室、図書コーナーも設置している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の私物を居室に置き過ごしていただいている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	喚起、温度調節等、日々実施している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	共有部分はバリアフリーになっている。居室は個々の私物にてその方が使いやすいよう配置している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々のケアプラン、定期的のカンファレンス実施にて個別対応を実施している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	植物や野菜などを裏庭や中庭で育てており、利用者とも収穫などを天候がいい日に行っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input checked="" type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	ハートホーム平川 グループホーム
所在地	〒753 - 0851 山口市黒川729 - 2
電話番号	0 8 3 - 9 3 4 - 7 6 1 1
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (5 月 22 日現在)

ユニットの名称	ユニット2				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名	男性	名	女性	名
	要介護 1		要介護 4		
	要介護 2		要介護 5		
	要介護 3		要支援 2	0	
年齢構成	平均 83.2 歳	最低 74 歳	最高 92 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	業務改善ミーティングにて実施
評価確定日	平成 20 年 4 月 19 日

【サービスの特徴】

ホーム内は自然光を採り入れ、温度調整にも配慮し、落ち着いて生活できるよう環境整備に努めています。

入居者が自分で配膳や食器洗い、洗濯や衣類の整頓等の活動ができるよう、必要な場面づくりに意図的に取り組んでいます。

ISOを取得している事業部門として、記録様式や組織全体の連絡相談など、基本的体制の整備に取り組んでいます。

母体医療機関の下で、多機能の事業所が整備されており、それぞれの教訓を活かした運営や専門職間の連携により、介護サービスと職員の質の向上を図っています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>				
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		理念を作成している	左記のことを引き続き実施していきたい。
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		理念を目の届く場所に掲げ、それを目標に日々取り組んでいる。	左記のことを引き続き実施していきたい。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		理念を明確に示している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		サービス向上のため、毎月話し合いのもと質の向上に向け取り組んでいる。	左記のことを引き続き実施していきたい。
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		2ヶ月の一度の運営推進会議を開催し理解してもらえよう取り組んでいる。	左記のことを引き続き実施していきたい。
<p>2. 地域との支えあい</p>				
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		畑で収穫した野菜を隣近所の方へ差し上げている。通勤時、帰宅時、散歩時など出会った隣近所の方に挨拶をしている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		年末、地域の子ども会と共にもちつきを事業所で実施している。夏、事業所にて納涼祭を実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。他にも地域行事を提供・参加出来ることを提案している。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		納涼祭、もちつきの実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果を職員全員で共有し、改善点は早急に取り組んでいる。	左記のことを引き続き実施していきたい。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度実施し、サービス向上に努めている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者が連携を取っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	実施していない。	勉強会の機会をもちたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に努めている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	不安・疑問・要望を尋ね、ケアプランに反映し、よりよいサービスが提供できるように努めている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員が話を聴き、意見をよりよいサービスへつなげるようケアプランに反映し努力している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、家族への手紙としてG/H便り作成し送付している。また、面会の家族へも変わりがないかを報告している。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		情報開示実施している(玄関先に面会者にみえるよう情報開示要求者には開示する旨を張り出ししている)。 左記のことを引き続き実施していきたい。
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		意見箱の設置を行っている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		提案や意見はすぐに反応があり、実施している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		よりよい勤務体制がとれるよう勤務の調整に努めている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		離職時、ケアをし混乱等おきていない。 左記のことを引き続き実施していきたい。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		毎朝の朝礼時などに研修を行っている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		多様な資質をもった職員を配置している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		毎月、定期的に勉強会などに参加している。 左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		左記のことを引き続き実施していきたい。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		研修機会を確保する。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		介護福祉士への手当てはあるが、計画作成担当者への手当てなし。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		話し合い、連絡を取り合い対応している。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		家族等と相談しながら工夫している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事参加等を促している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	理解に努め、よりよい関係が築けるよう努力はしている。		家族との連携を密にとりたい。
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会、外出にて出来ている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員間で情報を共有し、利用者同士の関係を支えている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	医療機関などグループとしての関係継続がある。		左記のことを引き続き実施していきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、その時々本人・家族の意向を反映しケアプラン作成・サービス提供を行っている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族に聞くなどし、生活歴の把握に努めている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	経過記録に記録を残し、情報を共有している。		左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族・本人の意向を反映しケアプラン作成している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	話し合い、見直しを行っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、個別の経過記録をつけている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況、要望に応じて柔軟な支援をしている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて対応している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	納涼祭、もちつきの実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問リハビリの実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	プライバシー確保は行っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	本人の希望を表せるよう働きかけて納得して過ごせるよう支援している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	その人の状況・状態に合わせ、日々、出来ることはしてもらっている。	左記のことを引き続き実施していきたい。利用者との買い出しの機会をもっと増やしていきたい。
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	本人のペース・希望に合わせた散歩の実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	訪問散髪がくるのでほとんどの利用者が利用しているが、希望者には、付き添いのもと美容院に行ってもらっている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	準備・片づけ等その日の状況に合わせて利用者で行っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。決まった利用者が手伝いをされることが多いので、他の利用者も出来るように支援したい。
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	おやつ、飲み物は家族に差し入れてもらうか、お小遣いで買っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	尿意・便意がある利用者はその都度トイレ誘導を行っている。定期的にも誘導、声かけを実施。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に3回の入浴を実施。時間帯は決まっている。		入浴を嫌がる利用者も少なくない。時間・タイミングを考えたい。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	状況に応じて対応している。		左記のことを引き続き実施していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	集団生活が基本になっているように感じる。書道が好き・得意な方には壁面の手伝いをしてもらっている。		一人一人の楽しみごとをもっと支援していきたい。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理ができる利用者は自分でお小遣いを所有している。パン屋が来た時は、買いに行ったりもしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気がいい日には近くのケーキ屋等に散歩に行っている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月、行事や買い物訓練にて外出等は実施している。		一人一人が行きたい場所へはあまり外出できていないので、実施していきたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望者は電話、手紙のやりとりをしている。正月は全員、家族宛に年賀状を出している。		左記のことを引き続き実施していきたい。年賀状以外にも、季節の手紙を出すように支援していきたい。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問者も多く、訪問しやすい環境作りをしている。		左記のことを引き続き実施していきたい。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば、適切に対応している。		左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		2ヶ月に1回、家族交流会を実施している。暖かい季節は外出行事も計画し、家族も参加されている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		拘束のないケアに取り組んでいる。 左記のことを引き続き実施していきたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		玄関は日中鍵をかけずに対応している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		利用者の所在確認を常に行っている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		その人にとって危険な物は預かり対応している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		ヒヤリハットを作成、職員で情報を共有できるようにしている。 左記のことを引き続き実施していきたい。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		定期的な訓練を実施している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		事故報告書・ヒヤリハットの作成、情報を共有している。 左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		定期的に訓練を実施している。手順書もマニュアルとして作成している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		話し合い、報告を実施している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		経過記録に記録を残し、情報を共有している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		内服処方箋の情報を職員で共有できるようにファイルを作成している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		便秘になる利用者が多いので、予防に努めたい。 便秘になる利用者が多いので、予防に努めたい。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		毎食後の口腔ケアの実施。歯ブラシやコップの毎週消毒を実施している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		食思、水分摂取が少ない利用者は医師に相談し、栄養補給剤を服用するなどし、対応している。水分摂取が少ない利用者は本人の嗜好の飲み物を家族に持参してもらうなど対応している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		マニュアルを作成し対応している。 左記のことを引き続き実施していきたい。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		食材はその時間に厨房から届いている。家族からの差し入れは賞味期限を確認し、その都度管理している。 左記のことを引き続き実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には、植物を植え明るい雰囲気をつくっている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	毎月、季節にあった歌の歌詞を書道し貼り付けたり、貼り絵等も貼り付けている。また、利用者にフラワーアレンジメントをやっていたり、共有部に飾っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。 日よけを設置したい。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓際に椅子をテーブルを置き、少数で過ごせる場所の設置。和室、図書コーナーも設置している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の私物を居室に置き過ごしていただいている。	左記のことを引き続き実施していきたい。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	喚起、温度調節等、日々実施している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	共有部分はバリアフリーになっている。居室は個々の私物にてその方が使いやすいよう配置している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々のケアプラン、定期的のカンファレンス実施にて個別対応を実施している。	左記のことを引き続き実施していきたい。
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	植物や野菜などを裏庭や中庭で育てており、利用者とも収穫などを天候がいい日に行っている。	左記のことを引き続き実施していきたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない